

私的仕事の流儀

今回は、令和6年度を迎えて最初の回となりますので、いつもと少し趣向を変え、自分なりの仕事の流儀について、お話ししたいと思います。

あらためて「仕事」について、辞書で引くと「何かを作り出す、または、成し遂げるための行動」、「生計を立てる手段として従事する事柄。職業」などと定義されています(デジタル大辞泉)が、総体的に言えば、「単独又は複数の人あるいは組織が成果等を求める様々な所為」ということになるでしょうか。

いずれにしろ、仕事とは、物理学で使用される用例等を除けば、人間にかかわる行為といえます。偶然と言われてしまえばそれまでですが、英語では、人間を表わす代表的な言葉が、「Person」や「People」と「P」で始まるためなのか、仕事に関する英単語も不思議と「P」で始まるものが多い気がします。そこで、試みに「P」で始まる単語になぞらえて、私的仕事の流儀について、お話させていただきます。

まず、「Prospect」(プロスペクト)です。この単語は、「見通し」や「展望」といった意味になりますが、どのような仕事にしろ、最初にこの作業を行うのではないのでしょうか。多くの方は、「この分量だと大体〇〇位の時間が掛かるだろう」とか、「せいぜい半日で終わるな」といった一定の見通しをもって仕事に臨むと思います。しかし、この見通しが、しばしば外れることがあり、そうなる「見通しが甘かった」と反省したり、他者からそのような指摘をされたりすることになります。

次に、「Plan」(プラン)です。先のプロスペクトに基づいて、具体的な仕事の手順を考えなければなりません。これがプランです。見通しを具体化する準備作業や段取りといってもいいと思います。この際重要なことは、「手戻り」などを如何に少なくするかということです。私の経験から言えば、仕事の効率性とは、仕事の流れがスムーズなことであり、その最大の障害要因の一つが「手戻り」であると思われるからです。

次に、「Practice」(プラクティス)です。この単語は、一般的には、「実践」とか「実行」と訳されるわけですが、プランを実践に移すにあたり、最も大事なことは、基本的な作業や手順を常に遵守するということです。こうしたことは、仕事に慣れてくるとついつい疎かになりがちなところもありますので、自らを守り、事故や不祥事を防止する観点からも、「初心忘るべからず」を胸に、職務に臨むことが求められていると思われま

次に、「Proportion」(プロポーション)です。この単語は、「調和」や「均整」を表わしますが、どんなに良い仕事をして、唯我独尊で他の人の仕事との調和やバランスが取られていないと折角の仕事が台無しになってしまうこともあります。これは、内容的なものもありますし、タイミング的なものも関係があると思います。時期尚早と言われる事態を避けるとともに、時機を逸したと言われることのないように注意する必要があります。

最後に、「Process」(プロセス)です。この単語は、一般的には「過程」や「手続」と訳されますが、仕事を行うには、結果だけでなくその過程や手続が正しく行われているかどうか大切な要素です。特に、何かミスをしてしまったときは、その後の処理等は必ず適正な手続で行うべきであり、日頃からそのことを肝に銘じておく必要があります。

以上、「P」が頭文字の単語をもとに、五つの視点から仕事に関する私見を述べさせていただきました。拙見ながら、仕事を進める際の参考にしていただければ幸いです。

令和6(2024)年4月



一般財団法人 かながわ水・エネルギーサービス
理事長 松井 聡 明